

I 実践

1 研究主題

自己有用感の育成と規範意識の高揚を目指した人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校は、『自ら学び 心身ともにたくましく 心豊かな塙山っ子の育成』を教育目標として掲げている。それを受けて人権教育では、子どもたちに正しい判断や豊かな情操を養い、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を進めることを目標としている。

そこで、児童一人一人が、日々のいろいろな人との触れ合いや多くの体験活動を通して、自分を大切にすることや、他者の気持ちを考え、互いに尊重し合うことが大切であると理解し、そこから思いやりの心が自然と育てられるように本主題を設定した。

(2) 研究内容

ア 豊かな体験活動

異学年交流・あいさつ運動・人権スローガン運動・思いやり集会・福祉体験

イ 人権に関する作品の応募

人権メッセージ

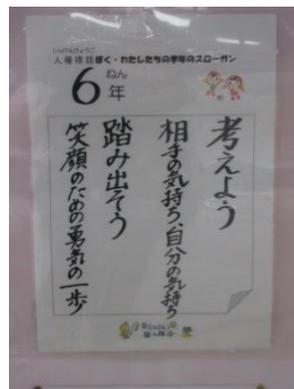
2 実践内容

(1) 人権メッセージ

各学年の実態に応じて、全校児童が取り組んだ。低学年は家庭に持ち帰り、保護者と一緒に人権について考えた。中・高学年は道徳科等の授業を通して、一人一人が人権について自分の体験を振り返り、自分の思いをメッセージにした。人権メッセージは校内の人権コーナーに掲示し、友達との関わりで感じる気持ちや、命の大切さ、自分らしさ等について友達の作品から学び合えるようにした。この活動を通して人権意識を高めることができた。

(2) 人権スローガン運動

年度当初に各学年で「人権スローガン」を考えた。一人一人が、人権への意識を高め、自他共に大切にすることのできる学年・学級にするためのスローガンである。各学期に「人権スローガン」に対する取り組みを振り返り、一人一人が「ふりかえりメーター」にシールを貼り、達成度を確認した。目標の達成度に到達しない場合、今後どのようにして目標を達成するのか児童同士で話し合い、「ふりかえりシート」に記入して意識できるようにした。「人権スローガン」と、「ふりかえりシート」はどちらも人権コーナーに掲示し、児童が毎日目を通し、確認できるようにしている。



(3) 思いやり集会

計画委員会が中心となって「思いやり集会」を開いた。今年度は、感染症対策としてテレビ放送で行った。各学年で年度当初にたてた「人権スローガン」と「ふりかえりシート」を掲げ、代表者が学年での取り組みについて発表した。また、計画委員会の児童が「こんなひといませんか？」というテーマで、仲間はずれ等のいじめに関する内容の劇を演じたものを放送した。福祉委員会の児童からは、プルタブの回収活動や募金活動の結果を報告し、一人一人の思いやりが、地域や人の助けになる活動を紹介した。また、学校長からコロナウイルス感染症によって感染者や医療従事者などへの差別やいじめが増えていることについての話を聞き、学校全体でいじめや差別・偏見について考えるよい機会となった。



(4) その他の活動



1年生を励ますぞプロジェクト



青少年赤十字登録式



プルタブの贈呈式

3 成果

- (1) 各学年で考えた人権スローガンを、学期ごとに一人一人が振り返る機会を設けたことで、相手を考えた言葉かけや態度など、人権に対する自分の意識に気づくことができた。また、人権に関するコーナーを設けることで普段何気なく考えている人権について意識化することができた。
- (2) 今年度はコロナ禍で、人と触れ合う機会や集会在が制限されたが、その中でも児童はできることを探し、映像を使ったり、屋外で行ったりするなど工夫した活動になった。

II 今後の課題

子どもたちの人権感覚を高めていくには、教職員の人権意識の高揚も不可欠である。校内研修などをさらに充実させて、継続的に人権感覚を養っていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

